

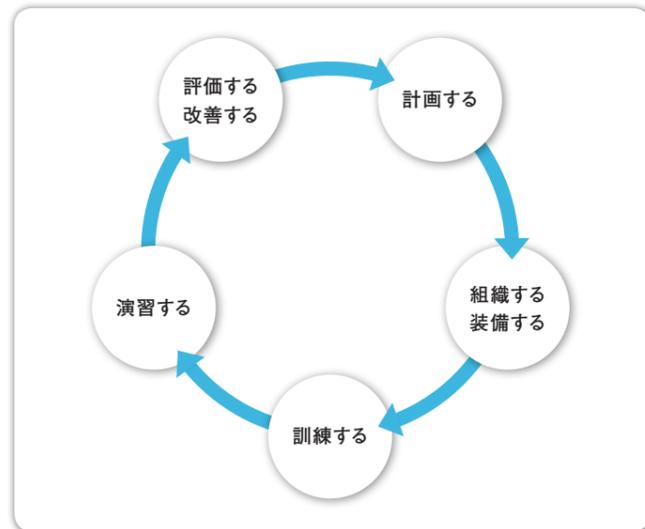
# ナショナル・インシデント・マネジメント・システム (NIMS) 概要

一般社団法人レジリエンス協会代表理事  
 一般財団法人リスクマネジメント協会評議員 **黄野 吉博**  
 一般社団法人レジリエンス協会 **白澤 健志**

図表1 NIMSの概観

NIMSであるもの:	NIMSではないもの:
インシデント管理の包括的・国家的・組織的なアプローチであり、インシデントコマンドシステム (ICS)、多組織間連携システム、および広報機能を含む	×単一の対応計画
あらゆる災害に対する、事前準備の概念と原則のセット	×単なるICS、または組織図
共通運用図および通信情報管理の相互運用性についての必要不可欠な原則	×単一の通信計画
標準化された資源管理手順であり、異なる行政区や組織の間での連携を可能にするもの	×ある特定の緊急事態管理/インシデント対応要員にのみ適用可能
拡張性があり、あらゆるインシデントに適用可能である(日常レベルから大規模なものまで)	×大規模インシデントの間のみ使える
継続的維持管理を促進する動的システム	×静的システム

図表2 事前準備のサイクル



インシデント対応の経験を統合するために、NIMSは次の5つの重要分野の要素は一体となって包括的なインシデント管理システムを形成する。

- I 事前準備
- II 通信情報管理
- III 資源管理
- IV 指揮と管理
- V 継続的維持管理

管理するには事前準備が不可欠である。国家的な事前準備の達成には、政府・民間部門・NGOの全階層の協力が必要である。

**① 概念と原則**  
 事前準備サイクルの構成要素5つは「計画立案」「組織化/装備」「訓練」「演習」「評価・修正行動」である。継続的な事前準備は、危機の際のよりよい連携につながる。(図表2)

**① 統一的手法**  
 事前準備は統一的手法で行う必要がある。それには、NIMSの構成要素を組織の緊急事態/インシデント対応体制に組み込むことが望ましい。

**② 能力レベル**  
 組織は、インシデントの前後および最中に得られる能力レベルと資源について見直しを持っておく必要がある。

**② 事前準備の達成**  
 対応要員およびその所属組織は、各自の役割と責務を事前に明確にしておく必要がある。方針・連携・支援といった業務に携わる者も同様である。

**① NIMSと他の準備業務との関係**  
 HSPD-7「重要インフラの特定・優先順位付け・保護」  
 HSPD-8「国家的な事前準備」  
 NIMSとNRFの関係  
 NRFは、あらゆる災害についての

国の対応方針であり、NIMSに基づき制定される。NIMSとNRFは国全体の対応能力向上を目的としており、地域での指揮権限は地方政府にある。

**③ 事前準備における役割**  
 NIMSは、緊急事態管理/インシデント対応に積極的役割を果たす官・民・NGOの全階層に適用可能である。特に重要な役割と責務は次の通り。

- 連邦省庁…HSPD-5は全連邦省庁に対し、NIMSを採用して個々のインシデント管理プログラムや活動に導入し、また州政府以下の各政府を援助するための全行動を支援するよう求めている。
- 州および地方政府…州・地方政府の資源や相互扶助・援助協定は、インシデントへの対応・管理・連携の第一歩となる。NIMSは、対応活動の指揮・統制・権限は各地域の行政当局が持つ、という概念に基づいている。HSPD-5は、連邦の事前準備の一助として、州・地方組織がNIMSを採用することを求めている。
- 民間部門とNGO…両者は、共同体がインシデントに備え、対処し、復旧するのを助ける上で重要な役割を果たす。対応業務に直接従事する組織は、その対応要員にNIMSの訓練を受けさせることが強く推奨される。

前回まで二回に亘り米国のインシデント・コマンド・システム(ICS)を取り上げたが、今回はその上位概念にあたる「ナショナル・インシデント・マネジメント・システム」(NIMS)を紹介する。

## 1 NIMS制定の経緯

2001年の同時多発テロのあと、ブッシュ大統領は2003年に国土安全保障令第5号(HSPD-5)「国内のインシデントの管理」を发出し、国土安全保障省(DHS)長官にNIMSの制定と管理を命じた。2004年に初版が発行された後、二度のハリケーンの教訓などを踏まえ、2008年に改定が行われた。

## 2 NIMSの構成

NIMSのテキストは次のような内容で構成されている。

- NIMSとはなにか/序文
- 導入および概観
- 構成要素I:事前準備
- 構成要素II:情報通信管理
- 構成要素III:資源管理
- 構成要素IV:指揮と管理
- 構成要素V:継続的維持管理
- 付録A:資源の分類例

## 3 NIMSとはなにか

NIMSは、生命・財産の喪失や環境への影響を減らすために、官・民・NGOのあらゆる階層の部署や組織が一体となって、原因・規模・場所・複雑さに関わらずあらゆるインシデントに対して、回避・防御・対処・回復・被害抑制をするための、体系的かつ予防的な手法を提供するものである。

NIMSは「ナショナル・レスポンス・フレームワーク」(NRF)と連携して機能する。NIMSがインシデント管理のテンプレートを提供するのに対し、NRFは国家的インシデント管理方針の組織と仕組みを提供する。

## 4 導入および概観

**① 導入**  
 同時多発テロと相次ぐハリケーンは、緊急事態管理とインシデント対応能力、そして米国全体の連携プロセスを改善することの必要性を明らかにした。

● 付録B:ICS  
 ● 用語集  
 以下、この章立てに沿って本文の各項目の概要を説明する。紙幅の都合で項目名の紹介のみの箇所も多いことをご了承いただきたい。

あらゆる階層・領域で適用可能な国家的・包括的手法は、自然災害のみならず、テロやその他の人災も含んだあらゆる潜在的インシデント、および危機シナリオにおける緊急事態管理/対応要員の効率性向上につながるそのような手法が、各種の緊急事態やインシデント対応活動における官民組織の連携・協力を促進する。(図表1)

NIMSの利点は次の5つである。

- 標準化されたインシデント管理手法であり、拡張性と柔軟性を持つ。
- 対応要員同士の協力や相互運用性を強化する。
- あらゆる災害に対する包括的な事前準備である。
- 行政当局間・組織間の資源連携を効率化する。
- ベストプラクティスや得られた教訓が反映される。

**② 概念と原則**  
 NIMSは「柔軟性」と「標準化」という二つの特徴を持つ。

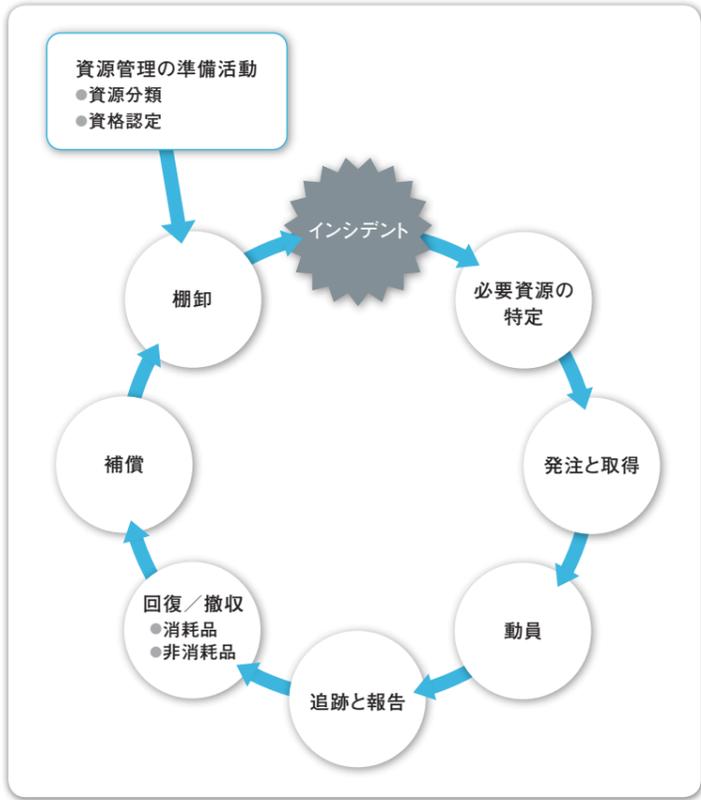
**① 柔軟性**  
 NIMSの構成要素はどんな状況にも適用可能な柔軟性を持つ。それにより災害対応に拡張性がもたらされる。

**② 標準化**  
 NIMSは標準化された組織構造を提供する。これにより、NIMSを採用した組織間では協働が促進される。

## ③ NIMSの構成要素の概観

国家全体にまたがる緊急事態管理と

図表3 インシデントの際の資源管理



**(2) 多組織間連携システム(MACS)**  
 多機能連携は、行政府の全階層がより効果的に協働できるようにするプロセスであり、分野・地域・階層を越えて起こる。また、他組織の要員が対応活動に関わるときは日常的に起こりうる。

① 定義

② システムの要素

- 施設
- 設備
- 要員
- 手順

③ システムの要素の例

緊急事態運用センター(EOC)

MACグループ

MACSの基本機能

状況評価

- インシデント優先順位決定
- 重要資源の獲得と配置
- 関連するインシデント管理方針と組織間活動の支援
- 他のMACS要素との連携
- 公選または指名された公職者との連携
- 要約情報の調整

MACグループと地域指揮所の相違

**(3) 広報**

**(1) 国家統合センター(NIC)**  
 FEMA国家統合センター(NIC)はNIMSの戦略的方向性・監視・連携を規定する。NICはNIMSの概念と原則の継続的維持管理と改良を調整する。

科学技術と深く関わりを持ち、研究開発の成果をNIMSの継続的改良改善に結びつける。

① 概念と原則

② NIMSの改定手順

③ NICの責務

- 管理運営と法令遵守

**(4) 指揮管理要素間の関係**

③ 広報通信計画

- 公衆および追加の関係者のための情報取得

① 導入

インシデントに関する情報をタイムリーかつ正確に伝えるためのプロセス・手順・システムで構成される。

広報機能は行政区や機能別機関を越えて連携し統合されなければならない。

② システムの定義と要素

- 広報担当者
- 合同情報システム(JIS)
- 合同情報センター(JIC)
- 組織的独立性

**(1) ICS**

① 管理上の特性

- 共通用語
- モジュラー組織
- 目標による管理
- インシデント活動計画
- 管理統制可能範囲
- インシデント対応施設と配置
- 包括的資源管理
- 統合通信
- 指揮の確立と移譲
- 指揮系統と指揮の一元性
- 統一指揮
- 説明責任
- 派遣/展開
- 情報管理

② インシデント指揮と指揮スタッフ

- インシデント指揮所
- 指揮スタッフ

③ インシデント指揮組織

- 一般スタッフ
- 運用部門
- 計画策定部門
- 物資調達部門
- 財務/総務部門
- 情報/調査機能

④ インシデント管理チーム

- インシデント複合体・単一ICS組織内での複数のインシデントの管理

⑤ 定義

- 地域指揮所
- 定義
- 責務

**(2) 支援技術**

① 概念と原則

- 相互運用性と互換性
- 技術的支援
- 技術規格
- 広範な要求事項

② 科学技術によるインシデント管理の支援

- 運用上の科学的支援
- 技術標準支援
- 研究開発支援

※NIMSに関する資料について

NIMS資料センター  
 (www.fema.gov/nims)

FEMAのWEBサイトにあるNIMS資料センターは、NIMSの概念と原則を実践し維持するため、次のようなオンライン資料を提供している。

- NIMSの情報および関連資料
- NIMSの構成要素
- NIMSの実践手引き
- プリーフィング、訓練およびその他の資料

次回は、NRFの中の緊急支援機能(Emergency Support Function - E SF)について紹介する。

**(1) 概念と原則**

相互運用性、信頼性、拡張性、可搬性といった重要概念に基づき、分野・地域・組織が異なる要員が確実に相互に通信できるようにする。

① 共通運用図

② 相互運用性

③ 信頼性・拡張性・可搬性

④ 復元性と冗長性

**(2) 管理の特徴**

① 標準化された通信の種類

- 戦略的通信
- 戦術的通信
- 支援通信

**6 (II) 通信情報管理**

緊急事態管理/インシデント対応が効果的に行えるかどうかは、柔軟な通信情報システムを利用して、対応要員とその組織が共通運用図を共有できるかどうかにかかっている。

共通運用図の策定・維持とアクセス可能性・相互運用性の確保は、通信情報管理の主要目標である。

④ 事前準備の要素

- 計画策定
- 手順と規則
- 訓練と演習
- 要員の資格認定
- 機器の認証
- 減災

**(1) 概念と原則**

NIMSは、分類・棚卸・組織化・追跡という標準的資源管理の実践を規定する。これにより、行政区を越えて重要資源を効率的に共有・統合することが可能になる。

① 概念

- 一貫性
- 標準化
- 連携
- 利用
- 情報管理

**(3) 組織と運用**

① インシデント情報

- インシデントの通知・状況・状態報告
- 分析データ
- 地理空間情報

② 通信の標準規格と形式

- 無線利用手順
- 共通用語、平易な言葉(平文)、互換性
- 暗号化または戦術的言葉
- 合同情報システム(JIS)と合同情報センター(JIC)
- インターネット/ウェブ手順
- 情報セキュリティ

**7 (III) 資源管理**

資格認定

② 原則

- 計画策定
- 協定の利用
- 資源の分類
- 資源の特定と発注
- 資源の効率的な管理

**(2) 資源の管理**

① 必要資源の特定

② 発注と取得

③ 動員

④ 追跡と報告

⑤ 回復と撤収

⑥ 非消耗品

⑦ 補償

⑧ 棚卸

- 資格認定
- 資源の特定と分類

あるインシデントにおける資源管理は、明確な始点と終点を持つ有限のプロセスである。(図表3)

**(4) 指揮と管理**

柔軟で標準化されたインシデント管理体制は、効果的・効率的なインシデント管理および連携を可能にする。この体制は次の3要素からなる。

- インシデント管理システム(ICS)
- 多組織間連携システム(MACS)
- 広報

② 発注と取得

③ 動員

④ 追跡と報告

⑤ 回復と撤収

⑥ 非消耗品

⑦ 補償

⑧ 棚卸

- 資格認定
- 資源の特定と分類

あるインシデントにおける資源管理は、明確な始点と終点を持つ有限のプロセスである。(図表3)